

Q1 所属する研究科(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	国際学研究科	9	14.8	14.8
2	教育学研究科	16	26.2	26.2
3	工学研究科	15	24.6	24.6
4	農学研究科・連合農学研究科	21	34.4	34.4
5	附属研究センター	0	0.0	0.0
6	その他	0	0.0	0.0
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q2-1 在籍する課程(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	修士課程(博士前期課程)	58	95.1	95.1
2	博士課程(博士後期課程)	3	4.9	4.9
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q2-2 在籍する学年(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1年生	22	36.1	40.0
2	2年生	30	49.2	54.5
3	3年生	2	3.3	3.6
4	4年生以上	1	1.6	1.8
	無回答・該当なし	6	9.8	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	55

Q3 研究科に進学した理由(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	将来、研究職につくことを希望している	20	32.8	32.8
2	いま学んでいる分野の研究が好きだから	35	57.4	57.4
3	学部・院生の時の就職がうまくいかなかったから	10	16.4	16.4
4	よい仕事をするために必要なスキルを習得するため	27	44.3	44.3
5	修士や博士の学位、資格を取得するため	19	31.1	31.1
6	企業・団体から派遣されたため	0	0.0	0.0
7	その他	1	1.6	1.6
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q4 学修研究環境において改善を要する問題点(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	研究スペースが狭い	18	29.5	29.5
2	研究設備、実験器具が不十分	14	23.0	23.0
3	図書館や付属施設、他専攻などの学内施設が使いにくい	11	18.0	18.0
4	PC、ネット環境の未整備	17	27.9	27.9
5	必要な資料、書籍が学内にない	21	34.4	34.4
6	指導教員から研究指導を十分に受けられない	6	9.8	9.8
7	周りにお手本となる先輩、教員がいない	12	19.7	19.7
8	研究科や専攻内の研究交流がない	17	27.9	27.9
9	TA、RAなどのサポート 対策が不十分	2	3.3	3.3
10	その他	6	9.8	9.8
11	とくに改善すべき点はない	12	19.7	19.7
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q6 学修研究活動における経済的な問題点(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	授業料の納付が困難である	16	26.2	26.2
2	研究時間確保のためアルバイトができない	24	39.3	39.3
3	アルバイトのため研究時間が確保できない	7	11.5	11.5
4	研究のための用品、書籍などが購入できない	4	6.6	6.6
5	研究のための調査に行けない	4	6.6	6.6
6	学会、研究会などに行く旅費がない	12	19.7	19.7
7	その他	0	0.0	0.0
8	とくに問題はない	19	31.1	31.1
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q6 TA、RAへの従事経験(SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	現在従事している	22	36.1	36.1
2	今は従事していないが、かつて従事していた	25	41.0	41.0
3	これまで従事したことはない	14	23.0	23.0
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q7 奨学金や授業料免除(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	給付制の奨学金を受けている	5	8.2	16.1
2	貸与制の奨学金を受けている	18	29.5	58.1
3	授業料の半額免除を受けている	8	13.1	25.8
4	授業料の全額免除を受けている	14	23.0	45.2
	無回答・該当なし	30	49.2	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	31

Q8 学修研究環境の満足度(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	100%満足している	8	13.1	13.1
2	80-90%満足している	27	44.3	44.3
3	60-70%満足している	22	36.1	36.1
4	満足度は60%未満である	4	6.6	6.6
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q10 学修研究活動を続ける上での不安(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	授業料納付、研究費や生活費などの経済的な問題	22	36.1	39.3
2	研究の進み具合に関する問題	32	52.5	57.1
3	将来のキャリア、就職の問題	38	62.3	67.9
4	人生設計、ライフイベントの問題	16	26.2	28.6
5	大学院での人間関係の問題	11	18.0	19.6
6	その他	0	0.0	0.0
	無回答・該当なし	5	8.2	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	56

Q12 修了後に希望する進路(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	民間企業で研究職	22	36.1	36.7
2	民間企業で研究職以外	22	36.1	36.7
3	公務員で研究職	6	9.8	10.0
4	公務員で研究職以外	3	4.9	5.0
5	小・中・高校など教育機関で教育職	11	18.0	18.3
6	大学・公的機関で研究職	5	8.2	8.3
7	博士課程(博士後期課程) への進学	3	4.9	5.0
8	海外の大学院への留学	2	3.3	3.3
9	将来のことは考えていない	0	0.0	0.0
10	その他	4	6.6	6.7
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q13 ロールモデルとなる女性研究者の存在(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	いる	17	27.9	27.9
2	いない	34	55.7	55.7
3	わからない	10	16.4	16.4
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q14 ロールモデルとなる女性研究者の情報(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	自分の思い描く女性研究者の情報は十分にある	6	9.8	9.8
2	専門分野が違ってはいるが、自分の思い描く女性研究者の情報はある	10	16.4	16.4
3	女性研究者の情報がない	29	47.5	47.5
4	とくに女性研究者の情報を必要としていない	16	26.2	26.2
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q15 男女共同参画活動の周知度(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	学長による「男女共同参画宣言」の発信	5	8.2	11.6
2	女性教員を増加させるためのアクションプランの制定	3	4.9	7.0
3	職員Webサイトでの男女共同参画に関する学内制度等情報の掲載	0	0.0	0.0
4	学内に「男女共同参画推進室」を設置	9	14.8	20.9
5	学内に「女性研究者キャリア支援室」を設置	17	27.9	39.5
6	宇都宮大学まなびの森保育園の設置	32	52.5	74.4
7	女性研究者を対象としたワーク・ライフ・バランス相談窓口の設置	2	3.3	4.7
8	女性カフェ(female cafe)の定期的な開催	12	19.7	27.9
	無回答・該当なし	18	29.5	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	43

Q16-a 社会的な偏見があるから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	10	16.4	16.7
2	2	11	18.0	18.3
3	3	17	27.9	28.3
4	4	16	26.2	26.7
5	5以上	6	9.8	10.0
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-b 男女間には能力の差があるから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	17	27.9	28.3
2	2	21	34.4	35.0
3	3	11	18.0	18.3
4	4	9	14.8	15.0
5	5以上	2	3.3	3.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-c 幼少期から男女で違った育てられ方をするから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	9	14.8	15.0
2	2	22	36.1	36.7
3	3	15	24.6	25.0
4	4	13	21.3	21.7
5	5以上	1	1.6	1.7
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-d 女子に高学歴を期待しない親が多いから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	15	24.6	25.0
2	2	18	29.5	30.0
3	3	14	23.0	23.3
4	4	9	14.8	15.0
5	5以上	4	6.6	6.7
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-e 中学や高校での進路指導が適切ではないから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	17	27.9	28.8
2	2	15	24.6	25.4
3	3	16	26.2	27.1
4	4	9	14.8	15.3
5	5以上	2	3.3	3.4
	無回答・該当なし	2	3.3	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	59

Q16-f お手本になるような女性研究者が少ないから(数量)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	5	8.2	8.3
2	2	8	13.1	13.3
3	3	16	26.2	26.7
4	4	19	31.1	31.7
5	5以上	12	19.7	20.0
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-g 男性が多い職場だから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	3	4.9	5.0
2	2	6	9.8	10.0
3	3	11	18.0	18.3
4	4	22	36.1	36.7
5	5以上	18	29.5	30.0
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-h 労働時間が長い職場だから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	5	8.2	8.2
2	2	20	32.8	32.8
3	3	10	16.4	16.4
4	4	18	29.5	29.5
5	5以上	8	13.1	13.1
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q16-i 男性を採用する傾向が強いから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	4	6.6	6.7
2	2	13	21.3	21.7
3	3	13	21.3	21.7
4	4	19	31.1	31.7
5	5以上	11	18.0	18.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-j 仕事と家庭の両立が困難だから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	1	1.6	1.7
2	2	3	4.9	5.0
3	3	5	8.2	8.3
4	4	31	50.8	51.7
5	5以上	20	32.8	33.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q16-k 育児休業後の復帰が困難だから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	2	9	14.8	15.3
2	3	18	29.5	30.5
3	4	20	32.8	33.9
4	5以上	12	19.7	20.3
	無回答・該当なし	2	3.3	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	59

Q16-l 研究に興味を持つ女性が少ないから（数量）

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	1	4	6.6	6.7
2	2	16	26.2	26.7
3	3	9	14.8	15.0
4	4	23	37.7	38.3
5	5以上	8	13.1	13.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q17 性別による処遇の違い(SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	あると感じる	6	9.8	9.8
2	ないと思う	47	77.0	77.0
3	わからない	8	13.1	13.1
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q17-1 処遇の違いの内容(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	就職のあっせん	3	4.9	50.0
2	教員による就職指導	0	0.0	0.0
3	教員による研究指導	2	3.3	33.3
4	TA、RAなどの任命	0	0.0	0.0
5	学会発表などのチャンス	0	0.0	0.0
6	研究費の配分、補助	0	0.0	0.0
7	その他	1	1.6	16.7
	無回答・該当なし	55	90.2	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	6

Q18 ハラスメントの実態(MA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	自分が体験したことがある	6	9.8	9.8
2	自分ではないが、他の女性院生が体験しているのを見たことがある	6	9.8	9.8
3	とくにない	50	82.0	82.0
	無回答・該当なし	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	61

Q19 回答者の年代(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	24歳以下	29	47.5	48.3
2	25-29歳	22	36.1	36.7
3	30-34歳	3	4.9	5.0
4	35-39歳	0	0.0	0.0
5	40歳以上	6	9.8	10.0
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q20 海外からの留学生(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	はい	10	16.4	16.7
2	いいえ	50	82.0	83.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q21 社会人の経験(S A)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	現在も在職中	8	13.1	13.3
2	現在は休職中	0	0.0	0.0
3	退職・辞職して、現在定職はない	6	9.8	10.0
4	定職に就いたことはない	44	72.1	73.3
5	その他	2	3.3	3.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q22 現在の世帯状況 (SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	ひとり暮らし	28	45.9	46.7
2	親と同居している	20	32.8	33.3
3	配偶者と同居している	6	9.8	10.0
4	配偶者・子供と同居している	4	6.6	6.7
5	その他	2	3.3	3.3
	無回答・該当なし	1	1.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	60

Q23 定時のアルバイトの経験 (SA)

No.	カテゴリ	件数	% (全体)	% (除不)
1	現在、週の半分以上アルバイトをしている	8	13.1	14.0
2	現在、週2-3日のアルバイトをしている	17	27.9	29.8
3	かつてアルバイトをしていたが、いまはしていない	22	36.1	38.6
4	定時のアルバイトをしたことはない	10	16.4	17.5
	無回答・該当なし	4	6.6	
	サンプル数(%ベース)	61	100.0	57

宇都宮大学に女性教員が少ない理由

	件数	平均値
Q16-a 社会的な偏見があるから	60	2.95
Q16-b 男女間には能力の差があるから	60	2.30
Q16-c 幼少期から男女で違った育てられ方を するから	60	2.58
Q16-d 女子に高学歴を期待しない親が多い から	60	2.48
Q16-e 中学や高校での進路指導が適切では ないから	59	2.39
Q16-f お手本になるような女性研究者が少 ないから	60	3.42
Q16-g 男性が多い職場だから	60	3.77
Q16-h 労働時間が長い職場だから	61	3.07
Q16-i 男性を採用する傾向が強いから	60	3.33
Q16-j 仕事と家庭の両立が困難だから	60	4.10
Q16-k 育児休業後の復帰が困難だから	59	3.59
Q16-l 研究に興味を持つ女性が少ないから	60	3.25

Q.9
どのような点が改善されれば、あなたの学修研究の満足度は向上するのでしょうか。

A

- 研究費が少ない
- 給付制の奨学金
- 図書館の改善（一般書でなく個人で買えない研究書を買う、土日も使いたい、閉館時間を長くなど）(6)
- 居場所となる控室の整備（空調・PC・広さなど）(10)
- オープンスペース等では集中できない
- 人数が少ないため交流が少ない(2)
- 他学研究科にも指導してもらえるような授業があるといい
- 中国人留学生の多くが真面目に取り組まない為、自身のモチベーションの低下につながる
- 1人につき一台パソコン完備
- ネットや無線ランの環境の整備
- 博士課程があるといい
- 研究科によっての環境整備の差
- 身近に将来の相談ができる女性研究者や先輩がいない為、研究を続けることへの不安
- 実験設備の充実(2)
- 他の研究室、ゼミ等で交流できれば研究に対する見方が変わったと思う
- 先生方に時間の余裕がほしい(先生が忙しく研究の相談が出来ない)(2)
- 院生の研究室、控室があるといい(学部生に占領されている)
- 研究の手法、進捗、調査の情報交換や学び合いができるといい
- 仕事をしているため、研究に費やす時間がない
- 女性の先輩が少ないため、研究について相談できないことがある
- 専門分野を広く深く学べる教授に会いたい
- 他大学から資料を借りる際、費用が高いと感じる
- 研究分野の文献を充実させる
- 学費の負担が減れば、精神的な不安が減り研究に打ち込める
- 相談窓口がわかりやすいといい
- 切磋琢磨できる学習環境がほしい
- 人間関係
- ゼミの定期的な実施

- 農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科(4)/国際学研究科(2)
- 農学研究科/工学研究科(4)/教育学研究科(2)/国際学研究科(3)
- 教育学研究科
- 国際学研究科/教育学研究科
- 国際学研究科
- 国際学研究科
- 農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科/工学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 国際学研究科
- 工学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 国際学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 農学研究科
- 工学研究科
- 教育学研究科

Q.11

あなたの不安を解消するために宇都宮大学ができる支援対策について、あなたのアイデアをお書きください。

A

- 民間企業で働いている理系との対談(同じ分野を学んでいる人)(2)
- 就職において先輩たちがどのように対応しているのか知りたい(2)
- 修士の学生も学会に積極的に参加させ、論文投稿の機会をつくる
- 先生方の関係が良好でなく、様々な先生と連携がとれない
- 専攻科内での学生同士の交流の場をつくる(3)
- 成績による授業料の免除
- 生活支援(寮、アパート、スーパーの情報等)
- ロールモデルとなる人物の紹介
- 奥手な先生がいるため、共同研究を求めている企業を推してほしい
- 先生方の会議を減らし、研究に携わってもらう
- 研究補助費の補助(研究の時間が取れなかったり、資料をそろえられなかったりする)
- 実績をあげられなければ卒業時に返済を義務付ける
- 男性教員は女性、ジェンダーの知識を身に付けてほしい(大学内で性差がまだあると思う)
- 女性を積極的に採用している企業の情報をメールなどで提供してほしい
- 修了した女性院生がどのようなキャリアを歩んでいるのか紹介してほしい
- 不安があるときにどこへ行けばいいかPRするとい
- 学費などで困る学生のために助成の案内などしてほしい
- 院生にアルバイト等仕事の紹介をしてほしい(研究はおろそかにしない)
- 掲示板の情報をwebで確認できるといい(フルで仕事をしているのため、掲示の確認が遅くなってしまう)
- TAに雇われる機会が増えるといい。先生の負担軽減にもなると思う。
- 研究職をめざす限り院にはいたい、学費が厳しい
- 指導教員とは別に研究に関する専門の相談員がいると心強い
- 分野が異なっても計画の方向性などを聞いてくれる人は多い方がいい
- TAに従事しているが、時間外が多いにもかかわらず残業代が出ない
- 研究室の先生の評価アンケートがあるとい
- 学会にかかる費用の全額負担
- 図書館の蔵書数の増加
- 長期履修生も授業料免除を受けられる仕組みづくり
- どの部屋も環境整備(PC,ネット)されているとい

工学研究科/農学研究科
国際学研究科/工学研究科
国際学研究科
国際学研究科
教育学研究科/農学研究科/工学研究科
工学研究科
工学研究科
農学研究科
農学研究科
農学研究科
教育学研究科
教育学研究科
国際学研究科
工学研究科
教育学研究科
教育学研究科
教育学研究科
国際学研究科
教育学研究科
教育学研究科
教育学研究科
農学研究科
農学研究科
工学研究科
工学研究科
工学研究科
教育学研究科
教育学研究科

Q.18-1

Q18で「1,2」に○をした方への質問。それはどのようなハラスメントでしたか。

A

- 留学生に家に無理やり誘われたり、AVの内容を話されたり、しつこくご飯に誘われた(3)
- 外部へ実験を見に行ったとき、現場や電車でちかんにあった
- 必要以上に威圧的な態度での会話やプライベートの詮索
- 「社会人としてだめだ」「こんな研究じゃ卒業できない」など研究員に何回も言われ、辛かった
- 教員が女性学生に個人的な話を尋ねたり、(女性だからという感じで)研究の出来栄えや取り組み具合を評価したりする
- 聞いたことがある程度
- 先生の好き嫌いで生徒への態度が全く違う
- 頭ごなしに数時間怒られる
- 触られる
- 車で送っていくよう頼まれる
- 夜や土日でも作業をしないと終わらないような仕事をやらされる(3)
- 関係のない作業をしても謝金が出ない
- 研究の相談をしてもアドバイスがもらえない
- 告白された

- 国際学研究科(3)
- 工学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 農学研究科
- 工学研究科
- 工学研究科
- 工学研究科
- 工学研究科(3)
- 工学研究科
- 工学研究科
- 教育学研究科

Q.24

宇都宮大学が取り組むべき女性大学院生の研究環境整備について、あなたのお考えをお書きください。

A

- 女子トイレは様式にしてほしい(2)
- 2年・1年生の時から女性の研究者についての情報を与える機会を増やすべき(2)
- トイレや研究室など居住空間の整備(3)
- 学外(バイト等)でセクハラの話聞くので、男性上司とどのように適切な関係を守るか講座などを開いてほしい
- 先生方があまり意見を聞いてくれない(男性中心で物事を決めている)ので、彼らの意識を改善したい(2)
- 先生の一言により、研究テーマを変更せざるを得ない状況があり、先生方の意識改善してほしい
- 男性大学院生との環境の違いがあまり分からない(2)
- 家庭をもっていないのでよく分からない
- 6号館(F棟)は大変不便なため改善してほしい
- 教育学研究科の授業や教授対策講座で院生もいることを配慮してほしい。
- 先輩方の話を聞く機会を設ける
- 交流の場を設ける(4)
- 女性を考えた社会
- 女性研究者のロールモデルとなる方がいれば実感が湧くと思う
- 学部生の時から多くの研究室を見て回れるような行事が必要
- 自分のやりたい研究と指導教員が一致することが理想
- 女性大学院生に限っての環境整備が必要と考えないが大学院生全体の研究環境が整うといい
- 女性に限らず、全ての人が色々な施設を利用できるように、利用の仕方を分かりやすくする
- 既婚と未婚で家事の負担や生活費の工面が違う為何とも言えない。
- 必要な人に必要な支援が届けばいいと思う
- 院生同士で助け合うことも必要(子育て中の院生がいれば保育園送り迎えの空き時間を数人でベビーシッターするなど)
- 環境は整えられていると思う
- 女性に限定されたことではなく、院生と先生とのつながりの改善
- 支援課の情報の掲示や指示はもう少し院生に寄り添ってほしい
- 大学院進学へのメリットを説明してほしい(身に付けられる知識やスキル、就職においてどのような人が必要なのか)
- 同じ専攻で同世代が少ないため悩みや不安を相談できないのが辛い(先輩や教授が話は聞いてはくれる)
- 同世代との交流がほしい
- 女性は体調に変化が起こりやすいので少し休めるスペースがあるといい
- 女性教員のコラムを載せたパンフレットを作り高校や専門学校等で配布する
- 環境整備はもちろんだが、意識の問題もあると思う。出産や育児に配慮やサポートをしてくれている
- もっと女性研究者キャリア支援室の活動をアピールした方がいい(3)
- 性差を感じたことはない(2)
- ネガティブな事例があるなら紹介してほしい
- 相談については個人情報の取扱いを厳重にしてほしい
- 研究室の内情を把握できる仕組みが必要

- 農学研究科(2)
- 工学研究科/農学研究科
- 工学研究科/教育学研究科(2)
- 国際学研究科
- 国際学研究科/工学研究科
- 国際学研究科
- 教育学研究科/農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 農学研究科
- 工学研究科/農学研究科(2)/教育学
- 工学研究科
- 工学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科
- 農学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 工学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 国際学研究科
- 教育学研究科
- 教育学研究科(3)
- 教育学研究科(2)
- 教育学研究科
- 教育学研究科
- 工学研究科

- 人間関係の改善
- 性差関係なく能力、成果で正しく評価されるといい
- 休暇制度、職場復帰の道づくり、病気の子どもを預かれる保育園の整備

工学研究科
教育学研究科
教育学研究科

研究科